

音楽科学習指導案

6年2組 31名 指導者 伊東奈央

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 観点をもとに一人一人が考えたことを出し合ったり、出された考えをもとに歌い比べたりすることは、思考を共有化するための手立てとして有効であったか。
- 「2組だけの思いを込めた歌い方にするためには、どのようなことを工夫して歌えばいいだろうか。」という学習問題は思考を吟味するための手立てとして効果的であったか。

1 題材 豊かな歌声をひびかせよう

教材 「明日という大空」 平野祐香里 作詞／橋本祥路 作曲
「おぼろ月夜」 文部省唱歌／高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲
「星空はいつも」 芙龍明子 作詞／浦田健次郎 作曲

〔共通事項〕音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、フレーズ、反復、変化

2 目標

音程やリズムに気を付けて視唱したり、曲想にふさわしい歌い方を工夫して思いや意図をもって歌ったりすることができる。

3 題材の評価規準

- 歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。 【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の反復、変化を聴き取り、それらと強弱や速度との関わり合いから曲想を感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【音楽表現の創意工夫】
- 楽譜を見て、音程やリズム、強弱などに気を付けながら、語感や旋律の特徴を生かして歌っている。 【音楽表現の技能】

4 題材について

(1) 題材の価値

子どもたちはこれまでに、5年生の題材「いろいろなひびきを味わおう」や「曲想を味わおう」で、歌声やいろいろな楽器が重なり合う響きを感じながら演奏したり、曲想の移り変わりを感じ取りながら歌や合奏をしたりする学習を経験している。そして、旋律の重なり方の違いが生み出す響きの良さを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫したり、互いの声や楽器の音の重なりを聴き合い、曲想の変化を味わいながら演奏したりする能力を身に付けてきている。

本題材では、気持ちを表現しやすい歌詞と旋律で曲想に合った歌い方の工夫しやすい曲を教材として、曲のまとまりと曲の山を感じ取って、曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようになることをねらいとした。

「明日という大空」は、声を出しやすい音域でつくられているため、声の響きを実感しながらのびのびと歌うことができる曲である。フレーズごとに階名唱することで、旋律の反復や変化、曲の山などの特徴も捉えやすく、歌詞に込められた気持ちを考えたり、表情豊かな歌い方を工夫させたりするようにしたい。

「おぼろ月夜」は、日本の情景を美しく描いた歌詞と、その語感を生かした美しい旋律の流れ、弱起の歌いだしなどを意識することで、歌い方の工夫につなげることができる曲である。フレーズごとの旋律の動きと強弱の変化とのかかわりに気付くことで、曲のまとまりや曲の山を感じ取りやすくなり、表情豊かな歌い方を工夫させるようにしたい。また、副次的な旋律の動きを捉え、主な旋律との絡み合いや、響きのバランスに気を付けるなど、全体の響きの中で自分の歌声を調和させる活動を通して、より表情豊かな二部合唱の表現ができるようにしたい。

「星空はいつも」は、歌声に楽器の音を重ねることによって生まれる響きを味わうことができる曲である。充実した合唱の響きに、それを引き立てる楽器の音を加えることで、より美しい響きを求めて工夫していくとともに、歌声と楽器の音が重なり合う響きの美しさを味わわせるようにしたい。

これらの学習は、題材「詩と音楽を味わおう」の歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら歌う学習へ発展していく。このような学習により、旋律が重なり合う響きを味わい、美しい響きを追究していく態度が育成され、豊かな表現を追究する力が身に付いていくものである。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、合唱や合奏では歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方や演奏の仕方を工夫しようとする子どもが増えてきた。しかし、互いの歌声を聴き合いながら歌い、重なり合う響きを感じ取るまでには至っていない。また、曲のまとまりに気を付けて、主な旋律を階名や歌詞で歌う能力や、楽譜を見て音程やリズム、強弱などに気を付けながら、語感や旋律の特徴を生かして歌う能力は、まだ十分とは言えない。そこで、旋律の音の動きや強弱の変化から曲の山に気付き、それらを可視化することで、歌い方を工夫させるようにする。また、録音機器の活用により、一人一人の感じ方のよさに気付いて認め合ったり、自分の思いや意図を明確にしたりしながら、より豊かな表現を追究できるように指導していく。

5 指導計画（総時数 8 時間）

主な学習活動【評価規準】		〔共通事項〕	時間
1 題材「豊かな歌声を響かせよう」で、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫しながら、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う学習をすることを学ぶ。 【関：歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を追究する学習に主体的に取り組もうとしている。】 明日という天空	2 曲想をつかみ、歌の出し方に気をつけて歌う。 【関：呼吸や発声の仕方に気を付けて、明るく響きのある声で歌う学習に主体的に取り組もうとしている。】	音色 リズム フレーズ 反復 変化	1
3 歌詞の内容や強弱記号を基に、曲想に合った表現の仕方を工夫して歌う。 【創：旋律の反復、変化を聴き取り、それらと強弱や速度との関わり合いから曲想を感じ取って、歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。】	一つの言葉の意味を理解して歌ったり、歌詞のもつリズムや言葉の抑揚に気を付けながらきれいな発音に心掛けて朗読を繰り返したりすることで、気持ちを込めて歌えるようにする。		2
おぼろ月夜	4 情景を想像しながら、旋律や強弱の変化から曲想を感じ取り、おもな旋律の歌い方を工夫する。 【関：歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。】	旋律 強弱 フレーズ 音色 リズム	1
5 語感や旋律の特徴を生かして、互いの旋律を聴きながら二部合唱する。 【技：楽譜を見て、音程やリズム、強弱などに気を付けながら、語感や旋律の特徴を生かして歌っている。】	音楽を形づくっている要素を手掛かりに、楽曲のよさや美しさ、作詞者や作曲者の意図を探求することで、楽曲に対する理解を深め、豊かな響きのある歌声で歌えるようにする。		2 (本時)
星空はいつも	6 歌詞の内容や強弱、速度記号に気を付け、歌い方を工夫して主な旋律を歌う。 【関：歌詞の内容や曲想を生かした表現に関心を持ち、それに合う歌い方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。】	リズム 速度 旋律 強弱	1
7 互いの演奏を聴き合い、合唱奏をして響きの違いや表現の工夫のよさを感じ取る。 【技：主な旋律や副次的な旋律、伴奏を聴きながら、歌声と楽器を合わせ、曲想にふさわしい演奏をしている。】	音の重なり合いによって美しい星空が自分たちを見つめ、呼び掛けている様子を表していることに気付かせることで、歌声が引き立つような音量のバランスを考えながら演奏し、歌声と楽器の音が重なり合う響きの美しさを味わえるようにする。	フレーズ 反復 変化 音の重なり 音色	1

6 本 時（6 / 8）

(1) 目 標

自分たちの思いを歌い方に反映するために表現を工夫することができるようにする。

(2) 評価規準

音の重なりや強弱、歌詞など音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、そのよさを表現するための方法について、自分の思いや意図をもっている。 【音楽表現の創意工夫】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、本時の教材と関連のある既習曲を歌い、斉唱における指導をしたり、友達と声を揃える楽しさを味わわせたりする。また、音楽を形づくっている要素を変化させた歌い方を比較することで、本時の課題解決への意欲を促す。「見通す」過程では、学習の進め方につ

いて話し合うとともに、歌い方を工夫するときの観点について具体的に確認することで、子どもが思いや意図をもつ手がかりとしたい。「追究する」過程では、自分たちの思いを実現するために、子どもたちの感性や発想を生かしながら音楽を形づくっている要素を操作する。グループで、歌い方の工夫を付箋紙に記入し、拡大楽譜に貼ったものを見合うことで、互いの思いや意図の共有化を図る。さらに、互いの思いや意図を実際に歌に表わして表現するとき、比較する「思考スキル」や関連付ける「思考スキル」を活用した発問を取り入れることで、よりよい工夫を身に付けさせていく。「磨き合う」過程では、互いの演奏を聴き合い、2組だけの思いが込められた歌い方に近づく方法を考えるようにする。また、学習問題に立ち返りながら、よりよい歌い方を書き込み用の拡大楽譜に書き込む。「振り返る」過程では、本時のめあてをもとに自己評価をさせ、自分たちの思いや意図を表現に生かすことの面白さやみんなで合唱をつくりあげることができるよさを実感させるようにしたい。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
つかむ	7	1 既習教材曲を歌い、響きのある声で歌うために大切なことを確認する。 2 学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 思いを込めた歌い方にするには、どのような工夫をすればよいだろう。 </div>
見通す		3 学習の進め方を確認する。 ・ まずはどのような工夫ができるか、一人で考えよう。 ・ 次に、グループで意見を出し合って、いろいろな歌い方を試すといいね。 ・ ほかのグループの歌い方も取り入れようね。 4 自分たちの思いを歌い方に反映するために表現を工夫する。 (1) 歌詞をもとに強弱を工夫したらよいところを考えたり書いたりする。 (2) 曲の山を感じられるようにしたいな。 (2) 考えた工夫を出し合い、互いの思いや考えを共有し、実際に歌って試す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 比較する </div> ・ 4段目の「夕月かかりて」は、月の光がほんのり薄い感じを出すために、3段目よりも少し弱く歌いだすといいね。 ・ 歌詞と強弱の関係は大切だね。 (3) 自分たちの思いが伝わる歌い方の工夫について話し合う。 ・ 付箋紙を見ながら歌うと、班の意見が生かされた歌い方になるね。 5 グループごとに工夫した歌い方を提案して互いに聴き合い、学級としての思いや意図を生かした音楽表現を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 理由付ける </div> ・ 1グループのアイデアを取り入れて、歌ったら、どんどん空が広がっていく感じにしたいな。 ・ 「はるかぜそよふく」は、春風がだんだん吹いてくる様子を表すために、少し強くして歌うといいね。 ・ 楽譜に書き込んだから、2組だけの思いが込められた歌になったね。 ・ 録音を聴くと、みんなで工夫した歌になったことが分かったね。 6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 歌詞の表す気持ちを大切にしながら、強弱や発音の仕方を工夫するとよい。 ・ 「星空はいつも」の学習でも強弱を工夫して明るい声で歌っていきたいね。 </div>
追究する	20	○ 「音タイム」で、旋律の特徴にあった歌い方を学習したことを想起させる。その際、原曲通りのものと強弱を変化させたものと2通りの歌い方を試す。感じたことを出し合うことで、歌詞に合わせて強弱を変化させるとよいことに気付かせるようにする。 ○ 拡大楽譜に記した1段目から2段目までの前時に学習して導き出した表現の工夫を想起することで、本時の学習の見通しをもたせる。 ○ 練習楽譜には、mf, p, クレシェンドなどの発想記号を入れないで与えることによって、自分で曲想表現の工夫をできるようにする。 ○ 試してよかったことは、学級全体の歌い方として、楽譜に書き込む。その際、学級で決めた記号矢印を使ってまとめていく。 ※ 音の重なりや強弱、歌詞など音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、そのよさを表現するための方法について、自分の思いや意図をもっている。 (活動の様子、発言) <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> ○ 積極的に歌い方を工夫している子どもには、旋律の音の動きや歌詞など楽譜に何を根拠にして工夫しているのかを尋ねることで、より表情や発声がよくなるよう助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、既習教材で工夫した音楽表現を見直したり、音楽表現のカードを選択して自分が工夫したいところを見つけ出しやすくしたりする。 </div>
磨き合う	13	○ 録音や鑑賞を行うことで、自分たちの表現したい思いや意図が音楽で実現できているかどうか確認させる。 ○ 学習のめあてをもとに、自分の思いや意図を表現に生かすよさについて捉え、今後の歌唱や器楽の学習に生かしていこうとする意欲につなげていけるようにする。
振り返る	5	